



# 金沢脳神経外科病院だより ふれあい

2006年  
冬季号

日本医療機能評価機構認定病院  
医療法人社団 浅ノ川  
金沢脳神経外科病院 広報誌  
第21号  
発行所 メディア広報室  
石川郡野々市町徳用町315  
TEL 076-246-5600  
FAX 076-246-3914  
URL : <http://www.incl.ne.jp/knouge/>

## 病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様に、より高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

## 基本方針

1. 患者の皆様の権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

## 患者さまの権利

私達は患者の皆様の権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様の権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、充分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

病院長



病院長  
佐藤 秀次

## 脳神経外科本来の 医療提供へ向けて

高齢者の在宅医療や施設療養・介護の中で発生する問題は、多様かつ複雑化しています。在宅・施設療養の多くの患者さんが直面する問題の中には、風邪をこじらせての肺炎や、摂食不良に起因する低栄養・脱水・廃用にもとづく機能的低下などがあります。最近、本院では脳卒中や頭部外傷など脳神経外科的専門治療を必要とする救急患者が増加する一方で、先の感染症治療や低栄養・脱水などの全身的管理の必要な患者さんの緊急入院も増えています。ところが、本院の限られた急性期用病床では、これらの患者さんのすべての受け入れに応じることは到底不可能であり、救急車や急患を断わらなければならぬ事態が生じています。



本院では、治療に一刻を争う脳卒中や外傷患者の緊急検査や手術に対応できる態勢を整えています。しかし、受け入れベッドのない状況では、それらは機能すらできません。この度、厚労省はようやく在宅療養支援診療所（仮称）の新設構想を打ち出しました。一日も早く、地域の方々が安心して在宅や施設での医療・療養ができるよう、その整備が進められることを切に願います。そうでなければ、旧態依然とした患者の病院依存、集中化は避けられず、医療の効率化や役割分担は進みません。地域の方々へのお願いとして、本院が脳卒中や頭部外傷の救急患者を一人でも多く受け入れることができるように、ベッドの確保にご協力ください。  
※寝たきりが続くなど、体を動かさなかつたことによつて起つた症状のこと。

## 登録医療機関 紹介コーナー



松田内科クリニック  
(能美市三ツ屋町38-3)

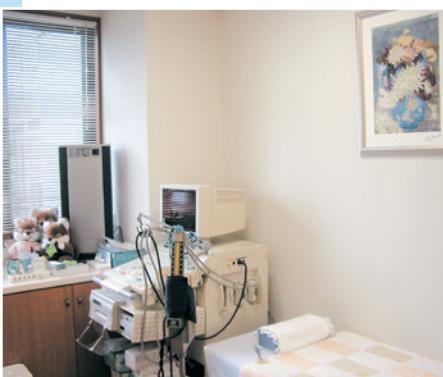
院長 松田 健志 先生

### 温和で誠実なホームドクター

今回は、平成元年からしばらく当院の内科外来を担当していただいている松田先生をご紹介します。先生のお父様は長くこの地で開業され地域医療に情熱を捧げておられました。先生はその志を繼がれ住民のホームドクターとして皆様の健康をサポートしておられます。



松田内科クリニック外観



**【先生の経歴】**  
昭和61年金沢医科大学大学院を修了後、金沢循環器病院を経て平成10年に開業  
**【先生の学会登録認定医等】**  
日本循環器学会認定専門医  
日本内科学会認定医

松田先生はその訴えをよくお聞きになる、私の親も診ていただいています。(談笑)とお言葉をいただきました。この先生です。

#### 【先生の経歴】

昭和61年金沢医科大学大学院を修了後、金沢循環器病院を経て平成10年に開業

## —椎間板ヘルニアなど脊椎手術が68%—

事務長 谷 寛憲

当院が平成12年11月に予約制の「脊椎専門外来」を開設してちょうど5年が経過しました。

この脊椎専門外来は、毎週金曜日の午前中に予約制で最大5名の患者さまを診ることになっています。開設当初は、当院で脊椎疾患を診ていることが殆ど知られていないことから受診される方もそれほど多くはありませんでした。

5年が経過した現在、手術を受けられた患者さまなどの口コミや医療連携先の先生方のご紹介で、ほぼ毎週予約の患者さままでいっぱいになつております。

最近では、予約がいっぱい受診できない方も出てきており、そのような方については、通常の一般外来で受診いただいています。

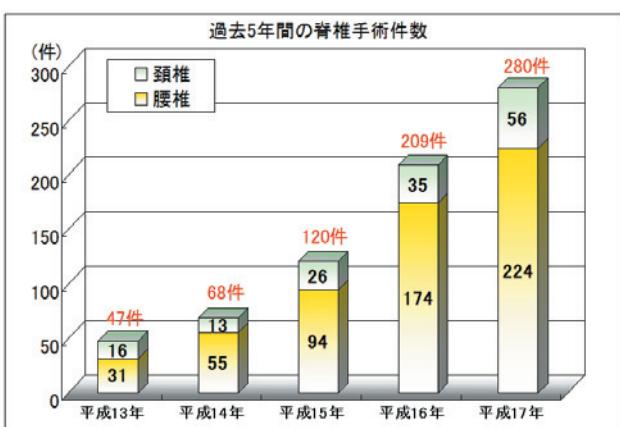
脊椎専門外来での患者さまの増加に伴い、脊椎手術を受けられる方も年々増加し、平成13年の47件に対し平成17年末では280件と約6倍に伸びており、全手術の約68%を占めるまでになつています。

特に“椎間板ヘルニア”や“脊柱管狭窄症”

では低侵襲(痛みが少なく、入院期間が短く、人にやさしいMD法手術)による手術が大幅に増加しています。

また、これらの手術成績については、日本脊髄外科学会などで発表し、その発表内容を当院のホームページ(<http://www.jncl.ne.jp/knowage>)でも公開していますので、是非一度ご覧になって下さい。

当院は、これからも“患者さまにとつてより良い医療とは何か”を常に考えながら、患者さまから信頼と満足の得られる医療を提供していきたいと考えています。



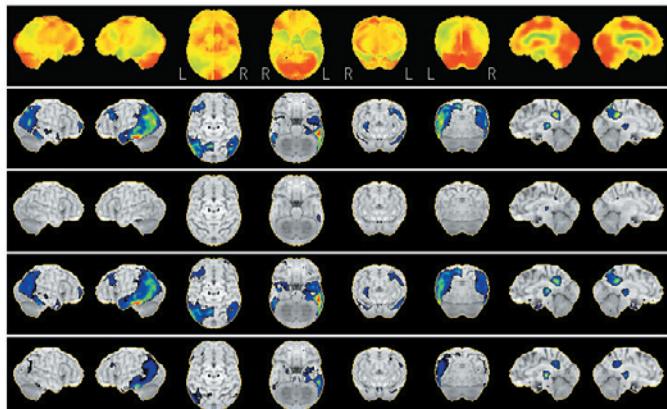
# 認知症③

ふれあい

③2006年(平成18年)1月31日発行/No.21

副院長 山本 信孝

記憶力が年齢を重ねることに衰えてくることは多くの方が実感していると思います。しかし、その記憶障害と認知症（痴呆症）とどこに境があるのかはつきりさせるのはかなり分かりにくい問題です。知っている人の名前がすぐに出でこなかつたり、物をどこに置いたか忘れてしまうとうことで外来に来られる方も多くおられます。病的である場合はあまりありません。客観的に認知症があるかどうか検査する方法に長谷川式簡易知的機能検査（HDS-R）があります。日付や場所等がわかるかどうか、簡単な計算ができるかどうか、簡単な記憶ができるなどを調べ点数化します。この検査は外来で10分程度で終わります。この検査で認知症が認められた場



で正常範囲でも、最近では脳血流を調べるSPECT装置を用いた検査で特殊処理をすることにより早期のアルツハイマー病を診断することができるようになり、軽度のうちに治療を開始することが可能となつてきました。

**医局**  
昨年懸案だった電子カルテが導入されました。未だ使いこなされていませんが、正確な記録と指示を行い、省力化につながるよう活用していきます。また、病院機能評価更新の年でもありますのであらためて現在の体制を見直し、改善すべきところを検討したいと思います。

**看護部**

今年の看護部はネガティブな「3K」ではなくポジティブな「3K」（共働・協調・会話）のある環境作りをしたいと思います。

より良い環境あつてこそ質の高いサービス・安全・安心を患者様に提供できることを考えています。

**薬剤部**

患者様が、安全かつ安心して薬物療法を受けられるよう患者様とのコミュニケーションに基づいた薬剤師活動に取り組んでまいります。

**検査部**

日々の検査データの中に埋もれてい る貴重な情報を掘り起こし、より的確な診断及び治療に貢献していくたいと

思います。

**放射線部**

医療技術の進歩は目覚しいものがあります。画像部部門も例外ではありません。新技術の習得、応用に心掛けより良質な画像を提供していきたいと思います。

**リハビリテーション部**

医療をとりまく環境が厳しい中で、急性期リハビリテーションの超早期化及び回復期リハビリテーションの更なる充実を図つていきたいと思います。

**栄養部**

患者様の視点に立った栄養ケアを提供できるよう、部署内はもちろん他部署との連携を強化していきたいと思います。

**事務部**

当院が(財)日本医療機能評価機構より認定証の交付を受けてから4年を経ました。本年は次期更新のための最終準備・整備の年です。前回よりも認定の基準が高くなっていますが、副院長を中心に職員一丸となつて更新に向け取り組んでまいります。

## 患者さんコーナー 島 智信様

”MD法による脊柱管狭窄症の手術を受けて“

私が手術を受けたのは平成十六年六月でした。それまで十

年近く腰部と足の痛みで鍼灸接骨院での電気治療と鍼灸治療

を受けておりましたが、全くよくならず紹介状を持つて総合

病院の整形外科へ行きブロック注射と投薬治療を受けました。

しかし、効果がなく、たまたま家内が足の骨折で入院治療を

受けた個人の整形外科クリニックの先生に一度診て貰つたと

ころ脊柱管狭窄症で足の神経を抑えているとのことでした。が

治療は牽引と電気とアクアラック（マッサージ機）に、時折

ブロック注射も受けましたが、騙し騙し我慢している状態で

した。そんな折知人から金沢脳神経外科病院が最適だと紹介

を戴き早速受診しました。MRI等種々検査の結果、脊柱管狭窄症と診断されました。院長先生より傷口が小さくて短期間

で快復する「MD法手術」の説明を戴き直ぐに手術を受け

ることを決断し、一週間後に手術を受けました。

### 第7回 フォーラム に参加して 医療の改善活動全国大会 in 札幌 に参加して 理学療法士 山口 史葉

発表は、初めてということもあり不安はありませんが、練習の成果が發揮できたのでよかったです。

特別講演では、1860年代は機械化の時代、1940年代は効率化の時代、2000年代になると、適応性の時代となってきたと言わっていました。私は

求め、そして明示された要求、さらには潜在的な要求にまで、視野の広がる医療人として皆で携

わっていけるチーム作りを展開していくと考えております。



### NST稼動施設認定を受けました

リハビリテーション部長 河崎 寛孝

平成17年11月1日、当院が日本静脈経腸栄養学会により、栄養サポートチーム（NST）稼動施設として認定されました。

病院は全国で652施設、石川県では18施設ありますが、総合病院が大

多数で当院のような専門病院で認定

を受けている施設は石川県では唯一、

全国的にも殆どありません。

当院では脳の損傷による意識障害や、お口での飲み込みの障害（嚥下障害といいます）の為に、入院当初から、食事が困難な患者が多いのが特徴です。

多くの飲み込みの障害（嚥下障害といいます）の為に、入院当初から、食事が困難な患者が多いのが特徴です。

病気の回復には十分な栄養補給が不可欠です。意識障害・嚥下障害のリハビリテーションと並行して栄養サポートチームのバックアップの下、経管栄養や点滴による栄養治療を行っています。



### 救える命そのために 第10回救急症例検討会開催

12月2日、当院が主催する第10回救急症例検討会を開催しました。今回は、平成17年7月から10月末日までに当院に救急搬送された189件の中から、3症例について熱心な討議が行われました。

また、検討会に引き続き当院の朴医師が「脳ヘルニア」について講演を行いました。次回は、3月8日に開催を予定しています。

